平成30年度　福島県立聴覚支援学校福島校　経営・運営ビジョン　年度末評価

【教育目標】
1　言語力を高め、伝え合うことができる人
2　自ら学び続ける人
3　できることに気付き、進んで取り組む人
4　心豊かで健やかな人

今年度の取り組み　－主体的に思考する力と自ら考えて行動する力の育成－

評価基準：A達成　Bほぼ達成　C課題が残る　D大きな課題が残る

評価者　：保護者１４名　教職員１１名　※【保護者評価・教職員評価】

Ⅰ－１ 自立と社会参加に向けて　【A・A】

1　地域の資源を活用した体験的な学習を積み重ね、様々な人とかかわる力を育てます。
2　地域の保育園や小学校及び居住地校との交流及び共同学習の充実のために、「個別の教育支援計画」を基に合理的配慮について共有し、主体的にかかわり合えるように支援し、社会性を育てます。

体験的な学習活動を通して、自然に触れたり、地域の方々とやりとりしたりしながら経験を積みました。また交流校においてきこえについての情報提供を行ったり、新たな取組を行ったりすることで、幼児児童は聴覚障がいについてより配慮された環境下で、大きな集団での学びを重ね、経験を広げることができました。
今後も、地域の資源を十分に活用し、たくさんの実体験を積み重ねながら、地域とのつながりを深めていきます。

Ⅰ－２ 主体的・対話的で深い学びと豊かな心の育成　【A・B】

1　語彙の拡充を図り、言葉を理解して表現する力を育てるために、「個別の教育支援計画」並びに「個別の指導計画」を活用します。
2　幼児児童一人一人の課題や手だてについての共通理解の下に、人とのかかわりの中でやりとりする経験を重ね、相手の考えや思いを理解し考えて行動する力を育てます。

学部全体で「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、幼児児童一人一人の聞こえやことば等に関することや、合理的配慮及び教育的ニーズについて丁寧に話し合い、共通理解のもと指導してまいりました。また、学部の行事において、相手の気持ちを考えて行動できるように環境を整備し、一人一人の「目指す姿」を明確にして指導にあたりました。

Ⅰ－３ 言語力と自己指導能力の育成　【A・B】

1　キャリア発達の段階に応じて、人とのかかわりの中で、適切に状況を捉え、自分で考えて行動する力を育てます。
2　聴覚障がい教育にかかわる専門的な内容について教員の研修を計画的に行います。

集会活動や清掃活動等の集団による活動の場をとらえ、相手が伝えたいことを理解したり、望ましいかかわり方を知ったりすることができるように取り組みました。
教職員は外部の各種研修会等へ積極的に参加するとともに、校内では手話学習会を定期的に実施したり、専門的な内容について理解を深めたりし、よりよい授業作りに生かしました。

Ⅱ 安全で安心な学校づくり　【A・A】

1　保護者とともに子どもを育てる環境づくりを行います。
2　学級活動での指導や道徳教育を充実させ、いじめ等の未然防止に努めます。
3　安全指導及び校舎内外の安全点検・整備を行うとともに、新校舎建築においては、聴覚障がい教育の専門機関としての施設・設備を整え、子どもたちが安心して学び生活できる環境作りに努めます。
4　災害発生時の安全に対する意識を高めるために、防災教育や放射線教育等の充実を図ります。

「スマホ・ケータイ安全教室」「進路について」「歯みがき教室」等で学んだ話題をもとに、学校と家庭で連携し、幼児児童を育てる取組を行いました。夏休みには、親子でできる運動について紹介し、コミュニケーションをとりながら体を動かす取組も行いました。また、いじめの未然防止についての研修会を行うとともに、全職員で幼児児童の様子を見守ってきました。日常生活において、不測の事態に対応する意識付けや手洗いうがいの励行に加え、地域の学習施設を利用した放射線教育にも取り組みました。

Ⅲ センター的機能の充実　【A・A】

1　聴覚障がい教育の専門機関として、広報や情報発信に努め、保護者や地域のニーズに応じた学習会や研修会を開催します。
2　医療や保健福祉等と連携しながら、0歳児からの教育相談を行います。
3　本分校や関係機関と連携しながら、聴覚障がい教育の専門性を活かし、保育所・幼稚園・小中学校等への支援を行います。
4　聴覚障がいの特性をふまえながら、子ども達の学びが深まるように、学習環境を整えます。

各便りの掲示・配布や、学習会・研修会を実施し、自立活動の学習の様子や聴覚障がいに関する情報を発信してきました。また、ホームページを利用し、幼児児童の日々の学習の様子や新校舎建築の進捗状況等の情報発信にも努めました。職員で関係機関を訪問し、各地域の聴覚障がい乳幼児の状況について情報交換を行ったり、幼稚園での支援や中学校で難聴理解授業を実施する等、地域の支援も積極的に行いました。今後も地域とのつながりを大切にし、幼児児童の環境整備を引き続き行っていきます。